「百尺竿頭に一歩を進む」

（ヒャクシャクカントウニイッポヲススム）

事業や仕事を進めて行く中で、どこかの段階で何か停滞感を感じることってないですか。自分の事業や仕事はもっと発展して行っていいはずなのに、なぜこの段階で停滞しているのかと歯がゆい思いを持つことってないですか。私は今までも、そういう思いを何度も持ちましたし、今でも、そういう思いを持ちます。自分の事業や自分が携わっている仕事は、やはり発展して行って欲しい。自分の理想のレベルまでとは行かなくても、やはり、それに近いレベルまでには近づいて行って欲しいし、発展して行って欲しい。そうだけれども、現実にはそのレベルとのギャップがあって、自分の事業や仕事が何か停滞している、どこかの段階で停滞している、と思い悩まれる方はわりと多いのではないでしょうか。もちろん、私もその１人です。そう思い感じる時、勇気づけられ発奮のきっかけになりそうな題材のひとつとして、題字のこの言葉…「百尺竿頭に一歩を進む」はいかがでしょうか。じつは、私もこの言葉には何度も勇気づけられ、助けられて来ました。今回は、このことに関して、お届けしたいと思います。

百尺竿頭に一歩を進む

この言葉は、中国の唐代の禅僧、長沙景岑（チョウサケイシン）禅師の問答の中に出てくる言葉だそうです。

竿＝竹の竿、１尺＝約 30.3 センチなので百尺＝約 30 メートル、相当長い竿ですね。竿頭は竿の先端。その竿の先は崖っぷちに出ていると想像してみて下さい。その竿の先端からさらにその先に足を一歩進めれば、もう落ちてしまいます。まっさかさまに転落して命を失ってしまいます。ではこの言葉はどういったことを意味しているのでしょう。

「百尺竿頭」とは仏教の世界では、悟りに至るまでの過程とその境地のことを言うそうです。「百尺」が悟りに至るまでの修行の長さと道程、「竿頭」が悟りの境地のことを意味します。つまり、百尺たる長さの修行に修行を重ね、「悟り」の世界に達したと思っていたとしても、そこに安住し執着しているならば、本当の「悟り」の境地とは言えない。そこに安住することなく、執着することなく、さらに一歩を進め、身を投げ出し、自由無碍（ジユウムゲ）になることが肝要で、それが「真の悟り」に通ずるという意味を顕わしています。

そしてこの禅問答の言葉は、さらに**「十方世界に全身を現ずべし（ジッポウセカイニゼンシンヲゲンズベシ）」**と続きます。十方世界＝あらゆる世界という意味ですので、あらゆる世界、あらゆる所にいる人々のために、利他の心で衆生を救うために身を投じて行くのが本来の悟りであるということなのです。

ですから、全体を通しては、**「長く修行に修行を重ねて、悟りの境地に達したと思って、そこに安住し執着していたとしたら、それは“真の悟り”とは言えない。さらに歩を進めて、いろいろな世界・いろいろな世間に身を投じ、自由無碍になって利他の心で人々のためになることが“真の悟り”に通じる」**、という意味になります。

そしてこれは、仏教の世界のみならず、私たちの実社会にも大いに当てはまることだと思います。**「事業や仕事、あるいは勉強や研究、そしてスポーツ等においても、たくさんたくさん努力・精進をし、かなりの程度まで到達したとしても、現在の立場や境遇に安住、執着することなく、さらに歩を進め、竿頭から身を投じ、利他の心で自分の関わりのある世界、関わりのある人々のためになって行くことがとても大事だ」**というふうに解釈できますね。

また、**「努力して高みを目指し、ある程度のところまで達するということは、自分自身のための精進に他ならないのですが、同時にその経験であるとか、思い感じたこと自体は、やはり間違いなくまわりの関わりある人々のためになるから、そのためにも大いにそれを分かち合って行こう。それも、利他の一歩だ」**という意味も含まれていると思います。

私たちは、自分の人生においても、仕事においても、勉強・研究やスポーツにおいても、自分自身の向上を目指して努力している。「百尺竿頭」に至ろうと精進しています。

私なんぞは、一生かかっても、「百尺竿頭」に至るどころか、その足元にも達しないかもしれませんが、**この言葉はいろいろな意味を含んだ、素晴らしい、そしていい言葉だと思います。肝に銘じておきたい言葉です。**

一歩を踏み出す

「百尺竿頭に一歩を進む」は、このように素晴らしい言葉だと思うのですが、私はこれに、もう１つの解釈の仕方を付け加え、それによって勇気づけられ、助けられて来たというのがあります。

最初にも言ったように、事業や仕事をやって行く上で、ある程度の段階まで進んで来ると、停滞感というか、ある種の頭打ち感が出てくる状況ってありますよね。何か、以前ほど業績等も伸びて行かない、市場も広がって行かない、堂々巡りをして同じ所に留まっているような状況です。あるいは、今までとは全く違う、新しい業界や新しい市場に飛び込んで行かないと、なかなか突破口は開けないようにみえる状況に直面したりします。

私は今までに何度もそういう状況に陥って来ましたし、今もそういう状況になることがあります。全く新しい業界に業務転換する時や、あるいは同じ分野で仕事を進めて伸展して来たけれども、現在は頭打ちし、新しい分野や新しい市場にチャレンジする転換を迫られていたりする時があったりしますね。そういう状況に直面するのは、仕事を頑張って進めて行って、もっともっと発展させて行きたいと努力することに付いて来る宿命みたいなものかもしれません。事業や仕事を伸展させて来たことに付いてまわる宿命みたいなものかもしれません。

そんな時に勇気づけられ、助けられて来たのが、**「百尺竿頭に一歩を進む」**に付け加えたもう１つの解釈なのです。その解釈というのは、次のようなものです。

“新しいことにチャレンジする、今まで経験したことのないことにチャレンジするのは、やはり怖さがある。…自分の中で、新しくこうすればいいんじゃないか、新しくこれをやってみたいというのはあるけれど、やはり怖い。怖いけれども、現状は切羽詰まっているのだから、何か新しいこと、今までにないようなことをやらないといけない、という状況だ。現状の打開、現状突破にはそれしかないんじゃないかという状況だ。

だけども、やはり怖い。竿の先にいるつもりなのに、一歩踏み出したら、そのまま落ちてしまうんじゃないか。崖の下に落ちて行ってしまうんじゃないか。自分の今まで積み上げて来たものが、全部崩壊してしまうんじゃないか。お金も失ってしまうんじゃないか、借金をいっぱい抱えてしまうんじゃないかと、やはり怖い。

でも、一歩踏み出すしかないし、それを求められている。そこで、どうのこうの言っても、もう踏み出すしかないので、思い切って覚悟を決めて一歩を進めてみると、何とそこには見えない階段、目には見えなかった階段があって、歩を進めれば上に向かって進んで行くではないですか。

一歩踏み出すまでは見えなかった階段があって、現状打開、現状突破して、次のステージへ向かって行くではないですか。そうか、そういうことだったんだ。だから行こう、怖くても行こう。一歩踏み出せ。“ こういった解釈になります。

何か自分に都合の良さそうな解釈に思えるかもしれませんが、私がそういう岐路立った時、決断を迫られた時、**「百尺竿頭に一歩を進む」**の意味をこのように捉えさせてもらって、勇気づけられ、助けてもらって来ました。いろいろ背中を押してもらいました。そして、実際に一歩を進めてみると、崖の下に落ちることはなく、やはり目には見えなかった上へ向かう階段があったのです。

じつは、その反対に、迷いに迷って、一歩を踏み出せない時もあったのですが、むしろそういった時の方が、崖の下に落ちてしまったような感覚に陥ってしまいました。今でも、あの時に踏み出せばどうだったんろう、踏み出せば良かったんだろうな、と後悔に似た思いを持っています。

また、私の知り合いや仕事で関わりのある人たちの中でも、竿頭から一歩を進めてみた人、一歩を踏み出してみた人は、“やはり行く前には見えなかったけれども、上昇階段があった。踏み出してみて良かった、踏み出さなかったら後悔するところだった“、という方は結構たくさんいらっしゃるのです。

そして、ここでもうひとつとても肝心なことは、実際に一歩を踏み出すまでは、上に向かう階段は見えない。踏み出してみて初めて、上昇への階段が見えるし、それを経験するということです。それを経験された方は皆さん、そういうふうに言われますし、私の経験からもそう言わざるを得ないです。実際にやってみるまではわからない、そこが人生のなかなか面白いところかもしれません。ですから、一歩進む前、踏み出す前はとても怖いでしょうけれども、勇気を持って、ぜひ一歩進んでみましょう。そこには、見えない階段が待ってくれているのですから。

「百尺竿頭に一歩を進む」…現状を打破しようとされている方、新しいことにチャレンジしようとされている方、今まで経験したことのないことにチャレンジしようとされている方、等々今までの枠の中から、一歩外へ出て何かをやろうとするのは怖いことかもしれません。特に事業や仕事関係に関することは、怖いでしょう。いろいろなものを失ってしまうかもしれません。取り返しのつかないことになってしまうかもしれません。とても怖いですね。

だけど、自分がやってみようと思うこと、チャレンジしてみようと思うことがあるのなら、ぜひ、竿頭から一歩踏み出してみようではありませんか。そこには、踏み出す前までは見えなかった「上昇階段」があるはずです。踏み出して、良かったと思えるはずなのです。怖いかもしれませんが、新しい一歩を踏み出してみましょう。そして、次のステージへの新しい扉を開いて行きましょう。

百尺竿頭須進歩
十方世界現全身

皆様の益々のご発展をお祈り致します！

ZaiSapo（ザイサポ）
㈱財務サポートコンサルティング
代表取締役
片上（カタカミ）智英（トモヒデ）
TEL 050-1523-1621
E-mail zaisapo55@ybb.ne.jp
HP http://zaisapo.jp

プロフィール
国立大学を卒業後、出版・広告関係の企業へ就職。主に営業・マーケティングを担当。その後、出版販売の会社へ転職。拠点マネージャーとして社員採用・育成指導等、拠点運営を２０年余り担当。後、㈱財務サポートコンサルティングを設立、現在に至る。医療関係・美容関係・飲食関係を中心にコンサルティング実績多数。また、大手通販会社と提携し、通販システム・ノウハウ提供のコンサルティングも現在展開中。